

野菜の需給・価格動向レポート(平成31年1月15日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	12月の価格情報				1月の価格情報	12月下旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	1月の主産地	生育及び価格の1月下旬までの見通し			
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格						(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	平均価格	現時点の価格水準	平均価格
		上旬	中旬	下旬							
葉茎菜類	キャベツ	72.93	63	59	77	96.86	・7.225t (99%)	愛知(58)、千葉(19)	愛知産及び千葉産は、天候に恵まれて生育が前進していることに加え、大玉傾向となっていることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 愛知産及び千葉産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、1月から平均価格が上がる中、現在平均を下回る価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。		
			(86%)	(81%)	(106%)						
	たまねぎ	76.91	67	58	70	92.10	・2.744t (91%)	愛知(57)、大阪(12)	北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっている中で、傷みが発生したことにより商品化率が低下したことから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回る価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。		
			(87%)	(75%)	(91%)						
	ねぎ(関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	81.54	106	109	111	82.13	・5.697t (78%)	北海道(91)	千葉県産、埼玉県産及び茨城県産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 年末・年始需要で一時的に値を上げて現在平均を上回る価格は、千葉県産、埼玉県産及び茨城県産の出荷が平年並みと見込まれることから、今後は平均並みで推移する見込み。		
			(130%)	(134%)	(136%)						
	ねぎ	81.54	108	108	111	82.13	・2.482t (82%)	北海道(79)	千葉県産、埼玉県産及び茨城県産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 年末・年始需要で一時的に値を上げて現在平均を上回る価格は、千葉県産、埼玉県産及び茨城県産の出荷が平年並みと見込まれることから、今後は平均並みで推移する見込み。		
			(132%)	(132%)	(136%)						
	はくさい	252.04	262	261	283	265.64	・2.772t (102%)	千葉(35)、埼玉(22)、茨城(18)	茨城県産は、天候に恵まれて生育が前進していることに加え、大玉傾向となっていることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 茨城県産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、1月から平均価格が上がる中、現在平均を下回る価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。		
			(104%)	(104%)	(112%)						
	ほうれんそう	467.01	344	312	368	473.04	・202t (100%)	徳島(25)、奈良(13)、中国(12)	群馬産及び茨城県産は、最近の冷え込みや少雨の影響により生育が停滞していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 冷え込みや少雨の影響により12月下旬から出荷量が減少し徐々に値を上げて現在平均を上回る価格は、群馬産及び茨城県産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、引き続き平均を上回って推移する見込み。		
			(74%)	(67%)	(79%)						
レタス(結球)	42.34	36	38	37	64.18	・6.320t (108%)	茨城(88)	長崎産は、天候に恵まれて生育が前進していることに加え、大玉傾向となっていることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 静岡産及び兵庫県産は、天候に恵まれて生育が前進していることに加え、大玉傾向となっていることから、現在の出荷は平年を上回っているものの、最近の冷え込みや少雨の影響により生育が停滞していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。			
		(85%)	(90%)	(87%)							
ほうれんそう	55.95	52	47	54	68.70	・2.948t (118%)	茨城(33)、愛知(14)、宮崎(13)	群馬産及び茨城県産は、最近の冷え込みや少雨の影響により生育が停滞していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 冷え込みや少雨の影響により12月下旬から出荷量が減少し徐々に値を上げて現在平均を上回る価格は、群馬産及び茨城県産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、引き続き平均を上回って推移する見込み。			
		(93%)	(84%)	(97%)							
レタス(結球)	423.62	377	366	497	372.27	・764t (85%)	群馬(33)、茨城(32)	長崎産は、天候に恵まれて生育が前進していることに加え、大玉傾向となっていることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 静岡産及び兵庫県産は、天候に恵まれて生育が前進していることに加え、大玉傾向となっていることから、現在の出荷は平年を上回っているものの、最近の冷え込みや少雨の影響により生育が停滞していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。			
		(89%)	(86%)	(117%)							
レタス(結球)	507.91	432	351	410	394.15	・360t (130%)	福岡(35)、徳島(34)	長崎産の出荷が平年を上回ると見込まれるものの、静岡県産及び兵庫県産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を下回る価格は、平均に近づくものの、引き続き平均を下回って推移する見込み。			
		(85%)	(69%)	(81%)							
果菜類	きゅうり	235.87	122	103	192	245.96	・3.157t (97%)	静岡(38)、長崎(17)、兵庫(11)	宮崎産、千葉県産及び高知産は、12月上旬に曇天が続いて樹勢が低下していることから、現在の出荷は平年を下回るものの、同月中旬以降の好天により生育は回復していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 曇天の影響により12月中旬から出荷量が減少し徐々に値を上げて現在平均を上回る価格は、宮崎産、千葉県産及び高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、今後は平均並みで推移する見込み。		
			(52%)	(44%)	(81%)						
	トマト(大玉)	233.81	118	113	180	244.82	・1.159t (107%)	兵庫(40)、長崎(24)、徳島(17)	栃木産は、天候に恵まれて着果状況も良く生育も前進していることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 熊本産及び愛知産は、天候に恵まれて着果状況も良く生育も前進していることから、現在の出荷は平年を上回るものの、今後は成り疲れの影響がでることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 11月下旬から出荷量が増加し徐々に値を下げて現在平均を下回る価格は、栃木産の出荷が平年を上回ると見込まれるものの、熊本産及び愛知産の出荷が平年並みと見込まれることから、平均に近づくものの、引き続き平均を下回って推移する見込み。		
			(50%)	(48%)	(77%)						
	なす	415.23	316	521	718	379.15	・1.855t (90%)	宮崎(41)、千葉(19)、高知(18)	高知産は、天候に恵まれて順調な生育であることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 高知産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、現在平均を下回る価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。		
			(76%)	(125%)	(173%)						
	ピーマン	392.83	301	547	697	358.27	・830t (91%)	宮崎(42)、高知(20)、徳島(11)	高知産は、12月上旬の曇天が続いた影響で樹勢が低下していることから、現在の出荷は平年を下回るものの、同月中旬以降の好天により生育は回復していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 宮崎産は、11月の出荷量が増加したことに伴い成り疲れに加え、12月上旬に曇天が続いた影響で樹勢が低下していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 1月から平均価格が上がる中、12月中旬から出荷量が減少し徐々に値を上げて現在平均並みの価格は、高知産の出荷が平年並みと見込まれるものの、宮崎産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、今後は平均を上回って推移する見込み。		
			(77%)	(139%)	(177%)						
	ピーマン	397.80	329	335	332	383.22	・2.685t (110%)	熊本(47)、栃木(15)、愛知(14)	高知産は、12月上旬の曇天が続いた影響で樹勢が低下していることから、現在の出荷は平年を下回るものの、同月中旬以降の好天により生育は回復していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 宮崎産は、11月の出荷量が増加したことに伴い成り疲れに加え、12月上旬に曇天が続いた影響で樹勢が低下していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 1月から平均価格が上がる中、12月中旬から出荷量が減少し徐々に値を上げて現在平均並みの価格は、高知産の出荷が平年並みと見込まれるものの、宮崎産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、今後は平均を上回って推移する見込み。		
			(83%)	(84%)	(83%)						
	だいこん	357.31	313	314	307	348.99	・1.189t (123%)	熊本(74)	高知産は、12月上旬の曇天が続いた影響で樹勢が低下していることから、現在の出荷は平年を下回るものの、同月中旬以降の好天により生育は回復していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 宮崎産は、11月の出荷量が増加したことに伴い成り疲れに加え、12月上旬に曇天が続いた影響で樹勢が低下していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 1月から平均価格が上がる中、12月中旬から出荷量が減少し徐々に値を上げて現在平均並みの価格は、高知産の出荷が平年並みと見込まれるものの、宮崎産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、今後は平均を上回って推移する見込み。		
			(88%)	(88%)	(86%)						
だいこん	440.08	393	421	409	417.24	・627t (97%)	高知(86)	高知産は、12月上旬の曇天が続いた影響で樹勢が低下していることから、現在の出荷は平年を下回るものの、同月中旬以降の好天により生育は回復していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 宮崎産は、11月の出荷量が増加したことに伴い成り疲れに加え、12月上旬に曇天が続いた影響で樹勢が低下していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 1月から平均価格が上がる中、12月中旬から出荷量が減少し徐々に値を上げて現在平均並みの価格は、高知産の出荷が平年並みと見込まれるものの、宮崎産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、今後は平均を上回って推移する見込み。			
		(89%)	(96%)	(93%)							
にんじん	406.14	383	412	389	390.96	・267t (101%)	埼玉(28)、高知(28)、熊本(18)	高知産は、12月上旬の曇天が続いた影響で樹勢が低下していることから、現在の出荷は平年を下回るものの、同月中旬以降の好天により生育は回復していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 宮崎産は、11月の出荷量が増加したことに伴い成り疲れに加え、12月上旬に曇天が続いた影響で樹勢が低下していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 1月から平均価格が上がる中、12月中旬から出荷量が減少し徐々に値を上げて現在平均並みの価格は、高知産の出荷が平年並みと見込まれるものの、宮崎産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、今後は平均を上回って推移する見込み。			
		(94%)	(101%)	(96%)							
にんじん	378.83	318	366	475	578.80	・504t (82%)	宮崎(49)、高知(22)	高知産は、12月上旬の曇天が続いた影響で樹勢が低下していることから、現在の出荷は平年を下回るものの、同月中旬以降の好天により生育は回復していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 宮崎産は、11月の出荷量が増加したことに伴い成り疲れに加え、12月上旬に曇天が続いた影響で樹勢が低下していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 1月から平均価格が上がる中、12月中旬から出荷量が減少し徐々に値を上げて現在平均並みの価格は、高知産の出荷が平年並みと見込まれるものの、宮崎産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、今後は平均を上回って推移する見込み。			
		(84%)	(97%)	(125%)							
にんじん	371.29	307	376	471	565.30	・269t (76%)	鹿児島(34)、宮崎(31)	高知産は、12月上旬の曇天が続いた影響で樹勢が低下していることから、現在の出荷は平年を下回るものの、同月中旬以降の好天により生育は回復していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 宮崎産は、11月の出荷量が増加したことに伴い成り疲れに加え、12月上旬に曇天が続いた影響で樹勢が低下していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 1月から平均価格が上がる中、12月中旬から出荷量が減少し徐々に値を上げて現在平均並みの価格は、高知産の出荷が平年並みと見込まれるものの、宮崎産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、今後は平均を上回って推移する見込み。			
		(83%)	(101%)	(127%)							
だいこん	67.55	42	42	53	79.03	・5.963t (98%)	神奈川(58)、千葉(35)	神奈川産及び千葉県産は、天候に恵まれて生育が前進していることに加え、太物傾向となっていることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 1月から平均価格が上がる中、神奈川産及び千葉県産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、引き続き平均を下回って推移する見込み。			
		(62%)	(62%)	(78%)							
にんじん	76.48	48	46	52	80.47	・3.369t (108%)	長崎(25)、徳島(21)、鹿児島(18)	千葉県産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。			
		(63%)	(60%)	(68%)							
にんじん	105.86	93	94	111	111.16	・4.506t (95%)	千葉(79)	千葉県産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。			
		(88%)	(89%)	(105%)							
にんじん	104.49	115	115	116	109.97	・1.453t (111%)	鹿児島(47)、長崎(25)	千葉県産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。			
		(110%)	(110%)	(111%)							

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23～28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)であり、保証基準額の算定の基となる価格であることから、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平均価格(平成25～29年)とは異なる。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載している(下記URLを参照)。
URL : https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	12月の価格情報					1月の価格情報		1月の主産地	生育及び価格の1月下旬までの見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格			(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	12月下旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率			
		上旬	中旬	下旬					
いも類	さといも	232.02	272	315	337	240.29	・893t (80%)	埼玉(42)、千葉(23)	<p>埼玉産及び千葉産は、夏場の高温・少雨や9月の曇雨天の影響から小玉傾向であることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 埼玉産及び千葉産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回る価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>
		228.44	323	370	403	219.65	・180t (71%)	愛媛(64)、中国(13)	
	ばれいしょ	92.33	113	111	113	103.85	・3,038t (97%)	北海道(69)	<p>北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっている。昨年6月下旬以降の長雨・日照不足や7月中旬以降の高温・少雨の影響により一部が小玉傾向となっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回る価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>
	92.33	107	105	103	103.85	・900t (82%)	長崎(51)、北海道(36)		

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23～28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)であり、保証基準額の算定の基となる価格であることから、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平年価格(平成25～29年)とは異なる。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪府中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載している(下記URLを参照)。
URL: https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	12月の価格情報					1月の価格情報		1月の主産地	生育及び価格の1月下旬までの見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格			(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	12月下旬の東京及び大阪市場の入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率			
		上旬	中旬	下旬					
洋菜類	ブロッコリー	286.55	302	361	386	300.88	・951t (116%)	愛知(35)、香川(19)、群馬(13)	<p>香川産及び群馬産は、最近の冷え込みや少雨の影響により生育が停滞していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。愛知産は、台風24号の影響で根傷みや欠株が発生していることに加え、一部に病害も発生していることから、現在の出荷は平年を下回っているものの、台風24号後に再定植したものの出荷が始まることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 香川産及び群馬産の出荷が平年を下回ると見込まれるものの、愛知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を上回る価格は、平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。</p>
		357.11	329	352	311	318.91	・282t (110%)	徳島(36)、長崎(14)、鳥取(9)	

注：1 平均価格は、過去5カ年(平成25～29年)の東京都及び大阪府中央卸売市場の価格。
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪府中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 主産地は、東京都及び大阪府中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載している(下記URLを参照)。
URL: https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

2 野菜の輸出入動向 - 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について -

〇輸入について

貿易統計によると、平成30年11月の生鮮野菜の輸入量は、7万3千トン(前年同月比111%)となった。また、加工野菜は、17万4千トン(同106%)であり、野菜全体では、24万7千トン(同107%)となった。このうち、中国産の輸入数量は合計で14万1千トン(同109%)と輸入量の57%を占めた。
11月の生鮮野菜の輸入量は、7月中旬以降の高温・少雨及び台風等の影響により国産野菜の出荷量減少で高値が継続していたことから9月から前年を上回って推移していたが、11月に入り国産野菜の潤沢な出荷により輸入量は平年並みに近づいてきた。
当月における品目別の動向をみると、生鮮野菜で輸入量が第1位のたまねぎは2万7千トン(同120%)、第2位のにんじんは9千トン(同106%)、第3位のねぎは6千トン(同96%)となった。
本年は、北海道を主産地とする品目(にんじん、たまねぎ等)において、天候不順により出荷量が減少したことから、当該品目の輸入量が大幅に増加傾向であったが、国内の野菜市場における価格が落ちついてきたにんじんでは、輸入量も減少してきている。一方で、台風24号による塩害が報告されていたキャベツについては、好天により概ね解消され順調な出荷となったものの、業務筋からの引き合いが強かったことから輸入量が前年を大幅に上回った。
品目間のばらつきはあるものの全体的な動きとしては、国内価格が下がり始めてきていることから、今後の輸入量は平年並みで推移すると思われる。

〇輸出について

11月の輸出量は、生鮮野菜は1,276トン(同30%)、加工野菜は1,547トン(同119%)となり、野菜全体では2,824トン(同51%)と大幅減少した。これは主要輸出品目のたまねぎの主産地である北海道における昨年の不作が大きく影響している。
当月における品目別の動向をみると、生鮮野菜で輸出量が第1位のたまねぎ及びシャロットは、613トン(同18%)となった。第2位のながいもは、327トン(同87%)となっており、引き続き台湾や米国における葉膳食材としての需要が強いと思われる。

野菜の輸入数量

野菜全体の輸入量(平成30年11月)

区分	平成28年		平成29年		平成30年	
	前年比	数量	前年比	数量	前年同月比	数量
生鮮野菜	83,540	162	65,600	79	72,871	111
加工野菜	155,213	106	164,052	106	173,821	106
野菜合計	238,753	120	229,652	96	246,693	107
うち中国産野菜合計	142,201	127	128,966	91	141,174	109
中国産シェア	60		56		57	

主な生鮮野菜の輸入先(平成30年11月)

区分	輸入合計	1位		2位		3位		
		前年同月比	国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	26,672	120	中国	24,911	アメリカ	1,750	オランダ	10
にんじん	8,938	106	中国	8,388	オーストラリア	417	ニュージーランド	100
ねぎ	5,917	96	中国	5,917	-	-	-	-
キャベツ	5,250	339	中国	5,098	台湾	114	アメリカ	37
ごぼう	4,705	88	中国	4,694	台湾	11	-	-
ジャンボイマン	3,912	95	韓国	3,224	ニュージーランド	483	オランダ	199
かぼちゃ	3,678	72	メキシコ	2,514	トンガ	748	ニュージーランド(他)	415
にんにく	1,832	101	中国	1,722	スペイン	98	アメリカ	11

同(平成29年11月)

区分	輸入合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	22,143	中国	21,333	アメリカ	799	オランダ	12
にんじん	8,427	中国	8,345	オーストラリア	76	アメリカ	6
ねぎ	6,166	中国	6,166	-	-	-	-
ごぼう	5,321	中国	5,277	台湾	44	-	-
かぼちゃ	5,096	メキシコ	4,163	ニュージーランド(他)	884	トンガ	48
ジャンボイマン	4,108	韓国	3,569	ニュージーランド	458	オランダ	80
にんにく	1,811	中国	1,681	スペイン	114	アメリカ	15
キャベツ	1,549	中国	1,521	オーストラリア	17	アメリカ	11

野菜の輸出数量

野菜全体の輸出量(平成30年11月)

区分	平成28年		平成29年		平成30年	
	前年比	数量	前年比	数量	前年同月比	数量
生鮮野菜	2,512	92	4,218	168	1,276	30
加工野菜	1,148	132	1,296	113	1,547	119
野菜合計	3,661	102	5,515	151	2,824	51

主な生鮮野菜の輸出先(平成30年11月)

区分	輸出合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ及びシャロット	613	台湾	531	ロシア	51	香港	19
ながいも	327	アメリカ	146	台湾	141	シンガポール	35
きのこ(その他、ほらたけ属以外)	85	台湾	51	香港	24	-	-

同(平成29年11月)

区分	輸出合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ及びシャロット	3,414	台湾	1,729	韓国	1,620	ロシア	48
ながいも	378	アメリカ	172	台湾	167	シンガポール	36
きのこ(その他、ほらたけ属以外)	105	台湾	64	香港	23	タイ	7

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」)
※平成29年1月以降、関税法の統計品目番号の変更により、「にんじん及びかぶ」が「にんじん」と「かぶ」に分離・集計されています。
※四捨五入の関係上、合計と各計の数字は一致しないことがあります。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 斎藤、山田、長島 TEL03-3583-9793、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は2月回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。
※無断転載せず ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関しても、当機構は一切の責任を負いません。